12
881
16

宮内省図書寮

蓬生　澪標並事一

巻名　細

事柄のもとゐのもりたるなるべし　なほ
なほ　きよもさ　ゆ　の　ゆ　ゆ　ゆ

八源氏はさいつころ海東にうつりたるとうきたりうまれ
二ところにもとめる宮にあるめ給て二条の東に流り給
ようにうけ給るとも載たりもとの話の家よりうつり給
るもかの意はまるさいつ遠生の宮と為給て高倉
殿の源氏のすはの四月のつゆもとまりて横れ立よ
はとまるも
まはかれてはひ給はひ 細 行平朝臣の高とまりち
てはさりの古歌のるとうもせみ六七条のうちと
うきりと
古 はるかにひとつ人あるこはるのうしはるとうはとまるこよ
都みもさはくあり〜ありけるとうはとはること
うはきれるとこころあるそ 宗 業平とてのんや
はとるのこひてそるるをりしう二条院うへとものうや

うみくさひのはもとうをとはりのうれこはるこよ
ひはりく 細 生人とれはうへはとうや 宗 源氏の古歌
とるるきはるはるはあるはは不弁まるれ人の自とみの
んやケ様はとを東橋のことの家はとうるるれとと
うむあや
うるあとはりはるるうるひとと 伊 信の業平
うとうあのんや 宗 義ともくのは官位ものは歌東
あるあるはるるとは位とはうはまは業東
はとるまは隨うるへ〜
竹のうれのうれあるとはくはつをてありうひやす
はるは 細 只代世のうれはうとはんそとやは信のはりひや
白〜古と序むるまはの人まあとくやはとうるる
神や花の流はくは代撰八忠信業とうとうるや

[illegible]院ハ東[illegible]とすもの[illegible]とも云ふや
[illegible]に行あひ出[illegible]行のみち[illegible]
宋 面流引[illegible]
[illegible]ん 宋 [illegible]のんるへ
中くそのうひともへ[illegible]
乃[illegible]のことに思ひやり[illegible]
[illegible]
常陸宮の[illegible]
[illegible]
[illegible]
細 [illegible]東橋の[illegible]
思ひ[illegible]
[illegible]

[illegible]
宋 源氏乃[illegible]
[illegible]東橋[illegible]
[illegible]
宋 源氏乃東
[illegible]
宋 源氏乃[illegible]
[illegible]
宋 東橋乃早下のん
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

のみうつてゐるを見て
宗 源氏の物のえんと未橋のるをふ〜たるとのんとをさとうへ
てゆうかはまてをもすへ
〜源世のさを紀てをてをへあのせうをあ〜をれし
まををまにわさとあうをらぬるのんをる〜へ 細 をを源の石

遷乃るや

うらをてるるやうみく 細 やうみその和歌白〜をうをよを結
みくへをきれと行うとをのうをにををめるや 宗 源の
源くをあ〜へぬるをとへわをと言うるやうにをる
して義結うぬや

とくあう〜ま〜みのち 宗 左遷乃るや
ちうをへあ〜をえ義やをを結へ 宗 遷をえ義結へ
ぬとのんや

そのえ物よをうをくををくををくしを結ひ〜と年月をう
まくに表よをひくを結有ちをるをはををうをををいくををと
へそやいとにわ〜をはをくををるう帝と 細 源の言伝聞
えを物や

物ひくに神伝のあうれ行つくんやうをうと〜法んをへをうく
るうをうをへををいてあうをる和をうを帝ちとををるくをん
をうしと 細 源乃出入結と神伝のやうをを〜とをや
大をるの世乃をを〜ひをうくまををあのむをるを紀法をを
法ををうれ〜をれとはをやをををあけく 宗 左遷ハ未橋独を
うをくぬ歌をれ結又通ハををれをを方ひをつのや
うにうをの〜ををををうまをとを有をををのをやをうへ〜
ちるうをにあうをつををををと〜法ををうを乃年法ハ〜をうひをる紀を
を〜をにめをれてをを〜と 細 文宮をとをを結ひ

しなやか　年　さしつ　さい　行　行　ある　行　のうや　宋　赤橋乃

苔をさしつうをとられとも　ともをとき　みを　孤　行　へいそれ　行

みそあるをしに中くに　源氏の　せつう　行　うしに

ひうくとうくしくしくしうそうや

中くをそうそうそうそうてあくしひすけるる年　月　ようとうくへる

をうひうけくへく　細　中　行　源乃　ううひ　行くと中たうて

たくうをうをくうれくうをうや

をうくくも　梅　あうぬ　ぬ　ぬ　たくへくいとのつくうくうつうてあう

しとみるはをくくうをうをうひくいをちうぬ　女　をくの　命

をうをぬをあうて　行　みをくうくうくうくうとのくうをとく

うくあうゆく　細　源のうをうひ　行くくひくくて

をうをとくくうあくくたうをうや　宋　式宮へまうるくをたうよ

　　　

ちをはらひとうらの
まきてくのうちて作りて毎人を行ふ事なれ
もおもしろきつゐほうるとこのむこれ宮のうちとんす
つきて 細 さ馬くゐ踏てあるへ乃つつや
されちたきつをてんやとはるとにつきてあんまいしや
さひるるどさやしよせさを行ひくいとうぬおそうう
ぬはとまひるあはるつうちうんさちちとたつ細
んもいとたへうしちと宮ゆまさや 細 数やり行へうしとや
宗 うとうあちたりんやと後て業内やさすうや人を
はきやしにたを行くわうそうしうぬ亦へうう行へを
行しやとや
はるふうしやへのうく思うんるもあつつをうを言よしうを行
ゆえわうさをうしてんかくあるそうしもにあまとてぬまを

物やのはうをさまるとあるんちをるあるれをるんちとふ
よちのくさうしてうあまとうちちるれのくゆるとをは
発 赤橋乃性や 細 常陸宮乃祠祭の遊也 注 赤橋者
宮〜〜や
浮てうをさくうくうひるれあるうむしゆうをうを
うくと 河浮 朝廷古代古祭 宗 注 ちをやとはうあし
くうちひあるうちさや
あうさものゆへうしんとうるへ 細 注 潮宮乃中 苦れもの
を祭すしやうくゐあるへもあるや 宗 元る宮と
あうちを行へうとゆひううへなるへし
ちうあえうして 元 用や 宗 亦用ようて行やとうをうや
物とうしするとものへうを
然うれへうへうさを行るやうて 細 その付乃

[illegible]ものゝ[illegible]ある[illegible]
[illegible]ものを[illegible]ものゝ
[illegible]や

あるいとをるものゝつくりかたをまなぶと思ふるつ
つゝてひろるをきゝ乃如りゝくいやん 笑 調度とゝりる
ち結りんゝと弱中や

ゝゝそいゝのはひろゝくゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 元 討倉
もれいさやれ調度ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

仏経不説云同（ニテ）法師と可漢とも行るゝ法師の中に
もをそ云んや　河　さもくちをしくあるんや　元　世俗の木男木人
をとゝ云ゝとゝ云ゝくゝくゝさゝと云や
ゝけきゝうもきゝうきゝうゝゝ　細　ひうもはゝうひうはゝうはゝ
まゝにはゝさゝはゝ意の如もゝゝんゝゝにゝあゝうゝまゝさゝい行とゝあゝ
ゝゝひゝく　細　掃除（ソウヂキ）ちゝとゝむゝもゝくゝとゝゝはゝるゝねゝもゝ仏ゝゝゝ下ゝ重
家の荒廃ゝゝさゝあゝうゝくゝゝゝゝゝゝ
ゝひゝのゝゝる廃ゝ西東北ゝんゝゝとゝゝゝゝゝあゝゝて漢ゝゝゝゝれ
ゝゝくゝゝれゝゝゝゝゝゝ

つるあり〜さはとそうあるみてあるそうれをみるう
たゆゑにちとやうれはすさいとうてそはきつくとそこひ
ちくさもろわさおろれ 宗 唐すうもまきもしにそこ〜しき
位さあり
さやうのことにとんとそそくて物〜弱み 宗 赤橋八ちとに
えあんや不落や 細 無このまつ〜さるうていあり
わとこのまつ〜〜ねや 細 まとを見又常のあつ〜ひや 宗 志おてこて数奇みて
ちくそもや
とのつ〜まさいそくちとあれはとを 宗 いろう〜さ
るとあれ位ちれ 細 ちとうちつてこそわさくへ
行ちゆんなるこうう〜ちとうちつてこそわさくへ
赤きゆはきてとんとちくさあ弱つへられとおやれもて

くつき弱〜清四とそこてのまに世中とはくまつ〜さゆな
ゆ〜あ 幸 男のまちるとれこのあ〜ちあ〜ちち
乃者位ちとそこてまつ〜くし弱や 細 女〜ちの又
くう〜弱ちやさやはとそこうあ〜とのちと文
云乃義別者〜まつ〜位〜くさくひくへうとそこく
しくしてまつ〜後さや天然と為〜さ為や
まうれちとうとうひ弱つへさはあ〜ちとそちつ〜位ちれ
弱つ位 宗 彼文然乃ゆ
ちとはあるちつ〜あけてうちとそくれ 唐守 貌結射 刀自 赤変 ちくや
姫の世紙乃ちとうさたるとう 細 つ〜きそ古ゆ弱きや
刀自 とは今を内侍西ちるとう
とそ刀自とそ女乃ゆ無ちるつへ
ちくくれちうさちとゆはしたつ 宗 聲 二十九

[illegible]
人とをしらしめんとあるこそ尋ねられ
細 古奇一方系なるもとたるべしハ面白き事ましさ也
乃横集なるとこそ乃和とある人をとも 笑 葉の奇
なるもとれ女と紙合ぬをとこ紙はとに面白きもの乃和なる
とのもの
うたてきさうむやうこんめ〳〵色乃こたちのこたちのなく
をめるこたちなるもとれめるれあるなるもといとをさまて
事なるもと 笑 紙屋門ゆて世にる紙やみちのこたうこん
檀紙や 百系こみちのくれ まめのこをとしらう
をめてあるめ給はるくハ紙をひらを給の原をあるて
むるや
とのやとんのをめる給をちちうとはくをみるとうるのいて

きちうこうこ給ひくの乃をきれとをくるくをとをきれとをくるとを給つ
とをとうを給つ 翠 氏神と為しさんや 細 花園左
大臣有仁公八幡殿をとうう給をのうう給ひ 橘南谷 笑 南附をあちんをもあ
給尾乃殿をとをとを給とをくく
るをいをとをるのんや乃和をるのんをきれくハをちち
給人ををををとや
をるこたうをくくて物〳〵給者る 細 光孝天皇常陸宮の
給給をつう者上為しを橘や
給浪をとひ〳〵給めれとこれこそくこたあくうれて
ぬ物をて古をとひつれこうこひ為うし 細 常陸宮乃めれと
のむをめ未摘出をこの乃て
出附をのをとを給をうるとにをうの乃〳〵んや
附院をを給をとくていとを為をくんを給をうをこの氏姫為

つくゝのものゝこゝろ母なくもちうまれて　母　葵をに　ものゝ
　　殿　細　女院　細　女院　雅　ものゝ
をとこのうへのみやすゝ　細　殿　雅　大殿の妻　雅
　　遠生の君の母方のをとこや　系　葛の御
むさぼるもうしつるをてうゝさわうゝ　人　もをに
　　細　大殿の　むさぼるや
きゝぬるうへは　はやくまゐてうゝひゝをとこひて
とゝのへくいきうゝこの姫君　はやく　人　うゝ　行　うゝ　を
きゝもつまゝうゝとゝ　ひゝ　ひ　行　ひ　君　ぬ　行
ゆんうゝは親　ものゝ　ものゝ　まゐてうゝひゝをとこを　行
　　殿　細　殿　は親　ぬ　中　や　さ
行　常に　殿　人　ものゝ　殿　細
て　行　殿　行　うゝ　殿　殿　遠生の　君　殿　殿　行　て
　　ものゝ　宋　妻　橘　うゝ　の　殿　殿　ぬ　行　ゆ

うむよりはとて　更　行　ものゝ　ものゝ　人　行　殿　や　ものゝ　と
はゝ　行　うゝ　親　うゝ　今　うゝ　はゝ　生　こゝ　行　殿　や　妻　橘　行　縁
ある　人　ものゝ　ものゝ　殿　行　殿　うゝ　ものゝ　うゝ　人　うゝ　や
　　ものゝ　ものゝ　妻　橘　は　殿　行　殿　や　又　妻　橘　の　ものゝ　殿　行
ものゝ　ものゝ　ものゝ　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿
とのゝ　とゝ　ものゝ　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿
しうは　姫君の　行　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿
ひ　ものゝ　ものゝ　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿
て　細　殿　姫君の　ものゝ　ものゝ　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿
　　ものゝ　ものゝ　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿
時　ものゝ　ものゝ　宋　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿
ものゝ　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿
人　ものゝ　ものゝ　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿　殿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はせ給ふ　宗　みすのうへ
　未橋殿　細　あまとのや
うの命をたすけ給ふ　宗　みすのうへ
　細　ゆるしの姫とのや
　　宗　みすのうへ
　　細　ゆるしの姫とのや
　　宗　未橋殿　琴　未橋殿のとのゐ
　　細　ひめとの心
　　宗　未橋殿のかたるを
　　細　ひめとの心
　　宗　未橋殿のかたるを
　　細　ひめとの心
　　宗　未橋殿のかたるを

ちうにあるべきことをいかにとのたまはせけれ
と思ひ給へ侍りしかば 第 信のろうかはれんやのろうハ呪詛
をんりうきこえ侍り
也 河内守紀ノ為定 撰字をとりあつめ撰言の義
あり 細 沒んの也
ちうかとに侍る世中にゆるさぬ部ようろう侍とは
ろうきされろうこひみくこちさつく我をかてんろう
されよ侍れんさしと年来ふと来ものひしとく
ろんの也 細 かくいふうちうふ中とこ女ようきてたうき
清涼殿にきんこのこと思ふ侍りしかとも
をとをとられるをとをんろんもんとんろんに義と申り
ちうろうのちうりくちうり 第 源氏は為朝さんは
とろ四也

ありにあるべきことをいかにとのたまはせけれ
細 ばまうきまに此宮ちうろうはこひ出て侍るをもの
也 第 原氏京の清和乱とものあるかとにやも
ろくとんこてはいかをあ 第 てと濁へし
とハうきらと如侍り年はあしぬさ海ろう法ちうきとうれ
しうふうきくなるをとこひあるく 細 常陸宮のうさ海ろ
四也 第 未摘のんて源氏は彩をとう侍やうひをんて
海をかくこつり年はのはしうさあるうきとあうんと彩
むしうきとうきと也
まきいつるきこのひ彩りまんと彩んしやうきとうれと
第 源氏ろ海京のようきひと未摘ろんん彩て我を拾
ありまれまこにあひうきやうあうんと漢しに
うき絶言作行ひきうひうれとのんも未摘まみ

有人たちのんを法華橋のんとて可然也
たひしうるとまてうるとまてうるとひとつふたつはかりの
あまうとうとをとうとひとうにのこさくつさうり者と
細 百性也 ゆきんとまてのんと 宗 [illegible]山賤也
うれうとわれられてさて 細 左遷乃河のるもや
さくわう分ひとつのたあこうれるを知しうひちるせう
なをんうけてはうとうれて人をまたを言とのの
ちをさ給 細 常陸宮乃法名とかと知しとも
古 世中ハ苦うるとやううもきんわうひとつのたあはちれうう
宗 左遷の河を海京乃河を同歌とのんも
大武乃みまさんとまさんかくそつさちく 細 こうみて
おもしあうてやも 宗 [illegible]とかはとうしうとれとこ
そをの河也

人とうさ法者さ海をとうすまう法ふんをあとちんや
宗 こあうこちれうくをるれさ海也
紅ひうをはこううさとこそみちをきうくう法ふれ
うう法者ちうみくをもをう世をとおし 細 法花経
[illegible]人[illegible]とて伝乃方仮うてもをひうくれ
生あうを也
宮うんをとのれををくとのまくにあくひ行つはこうろ
はうをれいとれくさくくはとうをにはのひく
れはをうくうちね 細 常陸の宮乃二親とうう 宗 [illegible]
とハ未摘の母[illegible]乃法[illegible]
世のうきけをかんこぬ山路とこそハそうぬをれかをうちとを
ひうくうきをのとおほくやるうあとをかさうに人をうをきうん
うををてうをうをしうをとうとこをとうくうくうくうひ

[illegible]

古 世のうきあだくぬ山ちへつくんまへこそほそ〜ちうけ重
古具 かくうれ山のいろるに宮もられ世のうさ対ろくれうよさん
女ろくうちをもひさ絵いたん 宗 末摘のうくれ女房きや
[illegible]

宗 さ〜たるうみをまし海さ〜やの初や
かくさてあるはんるくんともをれつかく 宗 末摘のも
やうのこときこ〜し
絵はをうの大武ろあるくれ人さうくひつきてくもしくくも
あ〜ちうれを四ろるはうにてたちつ〜ろをりとうんか
ていんうるくさとてそのう実ゆまて
細 大武ろあいの妻よあれり 宗 大武ろあいと絵はを変れ
そはくしへうれをうるやや絵はを末摘とさうくへなな

るたうと
ものをかをうるれあくへうう絵ぬるくんとのことうを
絵はんのうちよちりうもあうくへてう 細 源さたのことう重絵や
ゆ月〜うつはいくあ〜やハ 宗 源氏ろ清ん〜を末摘のお
もふんや
はうるまたんあうれ英をと絵ひ〜ま 宗 源氏ちうくろう
をの絵とうきしるゆや
我ろれうくてかくたうまうるたてそあれ用のはうくみてを家
うくいうさ〜さ家ちうさとうきくつ重絵うくうるうくはうとうくひ
いて絵ひてんと年ろうあ用〜くれを 細 六歳ろれ果絵
はうさうくあうてわをれぬまと絵〜絵ろ源をハ根絵
ハさうくん仏性みくく絵をろのさいくいとうをうれうや
大ろの清家あうて家ゆ〜うるゆ家ゆ〜ろ流ゆ〜くれとうろんも

てとられき清てうやとるとをそうるさうしあるこをなりたこうあ
つくれるるーしさうみくれんしもそうなりるりあるとれ
あるさうちにいくくれはしーちつこあるけ 笑 末摘の宮中
ちるとてそんくあれと源氏と勇んや
行りあるを源氏と勇んや
きくしんのあるきこのこをしりとりりにちるくあるとりてこな
上はうてめちるとを 細 弦くあるとをを只鼻とを如へ
弧指ようちとうるてしりり 笑 鼻のあるきとををうく
こりり指ちるとのこあくしーあるちさうや
れはるるきのんりんをりゆるたてきうをあくををう
笑 末摘のるはりそをあるるとはりれんのこうれちさにりく
をえんゆるたはまくしきさ海こ源ちるくてりをや
こりくはりしいとれくうあるひさうるれゆうりりをにあ

りをゆくまうに 細 笑 みる地や
いるくうさはるむりさるくをにるりあをくしをるる
細 るるつんりさるれるや 笑 寄えんるると澪漂をの始る
きるるとををを玄物をうされて樣乃亟如へ
ちりめをるる始 笑 末摘乃さ海や
りの屋ちてこ海の清きてれ海はるるゆをりてしを始ちて
とに俗ちるとはるてくれはりこをれりるるひるしん
をるるるれるれりをるるるれんひられん 汚 はれぶ明るをれ
をを也彼奉るは海りるるるるるへをるるんつをを始や
りり澪漂をに神云月みて清はしを始をるを遊又
はる同之三をを同りりや又源氏任大臣はは年二月也は奉
る孫所をの紀りを也指大納云をのくは八海とをり乾撲
乃亟の奉也作は亟の以年奉 流あるれ宮くを如へ源

光行卒する後、二条院御所行幸の時代、義経を召し出し、
一ノ谷にて手をうちたる時代、義経を召し出し、二条院奏聞を源
氏伝京の次第常陸坊上洛を聞きて源氏石山
詣の意を知也 細 漂泊中に有〻八海也十月中旬
や源氏亡家也
世せんしの元を家うち絶て常陸坊のはるかあさらとも
絶ひく 細 常陸坊のはるかあさらとも
きりく相大納言の〻はハ海よりて行つるあり〻とう〻
こう 第 未摘へ弥陀乃仏出現して八海の時と後絶
世也
いまる浦去のうさるとにとこ〻にかくれ〻う却りうさこと
こものうさりとなんし絶つる 第 生伝国のあ〻絶也
伝業義経の変化乃方よりそ〻めり〻絶めれ 第 源氏をこと

こ〻たり
いつくのみ〻るとあり化世にあるとて生れ行くんとかひくやうて
却絶あ〻ちとしく〻あふ 細 却初渭見渭牧渭京生渭金渭
源の清るゆ也之渭の世よ生れ行て奇物ゆるゆ也さくよ
ゆ絶也 第 又渭恵世乃るゆ也とう未摘を作て の絶也
よりへ人よ絶あはあそひみてくひる化世の却絶をうたに之要
こあるこを絶乃はは〻を化乃有さ海を
はるこを化乃はりれく〻あるゆ絶 第 弥陀さしく〻人
みく未摘乃清方のくひる化ありさ海をもこれひあ
こを絶乃あゆ也
こ〻の伝はさつやとはこう却也 細 伝業義経なくはひる
しさるゆとを絶乃はさるゆ也 第 未摘乃んゆ也乃の
絶よ源氏を伝業の義経よ之人あるゆよ家よ又んう乃

伝花やと深を恨給ふ如へ

きしたくさるとあるりみややうくさひちう給よ大武乃ぬのうさ

みそたにさくさ給りまいさを作りをもひぬと 細 はくくさ

詠也 深 大武乃ぬれひりを濡うを思心してそや

源へ乃頼もうさうとさるんや

さそひそそんのんみてを 深 ゆくしへ赤摘とつまやさんとのんや

てうしあうさ車のるとてぬまちくきぬうれぬ

さひあけたるさ海して 深 住吉表乃用をしたるや

ゆくつもちくくるとさてつあをさまるとんとろくさ

ゆくさるうとちゆひされ戸を苔う海ひたし

うきたくれて ゆくつをちく 深 んをくを風あるとぬを

をのををたもをてとうあをさくつまうれさひ

きやとみを 細 大武乃ぬの住ぬのとを

かあくもうをたる流あるをれ乃みちとをとる

可 蒔朝 鈴乾郷 三徑をたるを 舎中ノ竹下ニ開ク三徑ノ文

選曰三徑就荒松菊猶存 陶淵明詩也 三徑ハ門より行

みち井へ行る刷より行乃也 光ハ門れる家のあるを

なり 細 いるるれくき家みを伏三徑ハあるや伏宮

みを三徑をるもちを伏三徑ハあるや伏宮

やうくちをくを三徑をたゆるあうちれとれとを菊と

ぬれくはなとろんをとうをせうをを踏うゆ

河ろろんや

ろうに菊はもてろうくあをるをたれて

細 伏大武乃妻ちをハ門れるとみくくを下車をへをを

ケ徳ヨ車をのるとれるとれをるへををを

ゆへみたまのあるつくりさかぬへりしく
ん[illegible]とかけてはるへし
とたちそたちくもおほくしられとはるさまくうもくをたるル
丁ちくかそあ伯浪いてさるる　笑　赤橋乃ん[illegible]や水の車を
うをさるに[illegible]ちさとうれくこひ弦んや
るちちるとおとろへよあちと幸はけくうはけくれとちを
ものさくをたくはるちさしして　琴　とろへあ[illegible]和や
細　伯浪ノ宮板をそうひ宮1年はけちくひく進悴
そうるや
ゆくしあちくとをとうのるうるあ　琴　赤橋又伯浪を
あ[illegible]のるくやは伯浪を同ありさるや　細　伯浪を常陸宮
よとうへそれとや　笑　大弐の水乃ん敗へ
そたちちんとをひあくしきはありさ海乃

乃をてをうくれを伯浪のむへよあんをうきたるん
うくおほくへてあはさくくそ　細　大弐の妻乃河や
笑　下ヨのるをとくう
あくちはさみもわくをはくよ　笑　赤橋のみのれあへをに
ゆとを沙ゆちれとのうをとうう
ころへをたにゆるさを行へてをん　笑　伯浪ろるや
ちをとうを弦あをるさ海ふはかてうちをるくへさそう
しされとゆくうちよんをとやりていとんちよをるう
細　あるる地や　あつてをろへなくいうちをるくへさそうとや
こ宮ありをくく　河　細　あ[illegible]と隨ふとをくるや
とのをとはあてあをちうとおほくくをてをるくうん
うとくくしるやうにをうそあすくうと　笑　夏伯のみ乃に
ゆくるやて方ゑの左吉し給ことをう

年ぶりとぶみくやむしとなるに花ぶさにわけ〜あるを
宗 赤橋の源氏乃ことひとよ奴ぶとてあるひあり孫とも
ちなみ度なりと打〜まゝ〜のうつ内もくせ乃孫とうゝけ
くとぶつゝまゝうんむつひさゝゝさをんを 花 源氏この河
八大和とちう行へれと女房ちるとふひつをちるをとうう
くうとおぶくゝあもくゝ行つるを 宗 氏後をやうま
むう河也
世中ゝかくゝ行さめとあうるとをれて教ちゝぬ月を中く
んあもくゝ行る和あうあと 宗 源氏あうゝまゝて内人
孫ひつれとゝて八文さやうみとちるとのんとをう
とうひるくゝかをうし行ぶさ海の 宗 赤橋乃ちをや源氏
ひ孫〜河のうを也
いとうるゝうんうるゝをと 宗 とゝ赤橋の孫〜きうをとう

ちうきぶとをとのつうゝ海ありものうにあのも
〜うをんぶけうをとかくうゝるゝにまうるをんとをれたう
〜海ゝくゝ行りをんあ海ゝ孫ちうんとうゝ人と
細 京ゝあう河をとうう 細 宮也
んうをてをつゝ人孫うを
いとうをゝさうのうれと 細 文のゝと宗
世ゝ伊ぶさ海うてちゝみうゝあうゝゝてうちとうを孫ん
とうんゝ海るとのゝう孫人ゝ 宗 我果孫をうれ分との孫也
ちゝみゝうんあぶさうゝ人ゝとれとうあうんゝとをて
細 大武乃書の河 宗 山ちう乃同ん〜ある河也さやうにお
ぶさうゝのんむうれゝ〜ゝんも
かくむくぶをれをさあひうをゝひ海〜をやあ〜孫
大和度乃つうゝみゝさ孫ゝんゝゝをひきうゝ人むのうてうみ

とあるうへにあるとハ　宗　あるとハ持てケ様よりそうて
きさきさうなるすると人をけるまゝ〜さとのんや
全のまゝうへ伝達と　宗　先ものまんの知るうへ〜
たゝとハ音ア〜の宮乃法むとめたちほうにんうまれるも
ものたるもとうてくしきはゆゆてあるとさう
にうちひ話ひあるすてこれ知ほ〜それまるたるう
細　紫うや　宗　法内ゆ中ゆて或ア〜とうあるも式ア〜まて
しあるうく故行人遣ハ紫式アムあゆまうるうるや
まゝてうう物さうれさ法ものうゆ物さうにもくし結
ものるへとて　宗　来橋乃うるあうさ海とうゆ中うう結ものて
んさうく我とあのう結るうるあうさ海とうゆ中うう結ものて
といとゆるくうんあるうへきるとうひまうるうと　細　法乃
の貞女うもゆ別してうう結ものうゆ　宗　まれと音原

民の法うゆ法ものとうう
をにとゆ物をもいとうるゆ法ものうるうて法ものを
とううくるうとあるくう結ものうるうるうひまうるうて
さうへ法結ものうにいるをへんうるうに
ものうるうるうまうにいるをへんうるうに
ものるうるうく　細　宮乃法ものんや来橋のんうるゆくの結へ別
とうう結ものや
ものうるうまうへうるうるうにまうて結
らん　宗　伝法初　細　伝法ものくさめてとうるうるうるうるゆ
宗　一宮伝法ものうるうへうれと南海乃初ものくうるゆへし
うの宮ものうう結ものうるうるうるうるゆ　細　伝法ものうるうて大
武乃春のうもゆ又宮れの結ものうれものうるうるうるうるう
とゆ　宗　宮ものうるうるうるうるゆ
又ゆ用ものうるうゆるうるうるゆ法ものとうる伝法ものゆ　宗　来橋の国へ

[illegible]

中[illegible]

[illegible] 宋 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

事なり

[illegible]

細 ありあけまつといふこゝろや　宋 末摘の心やむかしの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宋 末摘といふやうもかんとくやせとき云ふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の神は通神なるや霧掛
[illegible]の神とぞいふなるや白の[illegible]
遠中九行[illegible]や苦黄帝四十[illegible]の中に[illegible]の
掛行の遠と始[illegible]敢不留二千宮中に[illegible]遠霧掛九
[illegible]て死[illegible]て[illegible]時掛曰[illegible]神と行客とやるべし
[illegible]苦の[illegible]と極[illegible]と[illegible]霊後神とやるべし
[illegible]神[illegible]や[illegible]ぬる掛人錢送の雨とハ祖席とも云
世信[illegible]人の神[illegible]
[illegible]間祖席離人醉[illegible]帰帆落日行論語曰[illegible]
於[illegible]山掛八祭の神とのんなる[illegible]行芳集る物へ行
[illegible]
[illegible]
[illegible]

細
[illegible]
[illegible]
祖神[illegible]
[illegible]
[illegible]

初きいつまた　第車あるへしうるうの月伺候う
さ海たちつへし
ゆきとなれはうつくしんかうわくまゆるるもとらとんは
うつあはさに学よりもいらるまつき　第伺候はん
そくはとの四也
はひんさんいてやもとうまきていてうたまう給たん
まれしもそそて猫しそまつれと　細　へくく
ともうへくくもあくいひあつる也　第伺候ハうう紀人
ようをんきんをりてゆきてまつきさんきて
よともうたうれんとも也
とのうあくよつをたうそうとも思ひてくとま
るまつうとうとへまろくさくあうは第月そう
まるれて書あくまうちうてはみそさゆうまも

あうをはさはうひとあゆきくうまむうくあうまに
みうはまうて　第　そのうくにうるうひあるたうう
とあんしみうとも
うはれうくみうひやくうる書あうちうよてうるもん
うにはまうて　はまくくとあうは　細　伺候の物語は
とうひの白粒うひやくうあるうもうる代数う第同
うれうことうとううくはあうきうくひくまうき
ちうはうるんうへまくてうるも　細　伺候うる也
芸うまうくきはうはうれうちをはうくうくうくひくく物
うれうくあはうさる　細　芸は　方　家のうくうさも
かの度うはあうくくんるいうくくはうくくくはあううさ也
まて　細　紫うとうう　第二条俗みて俗京公家富士
のあうくくうにんまくくあうくくうくうさ俗也

源の紫式部とつくりたるなり
ひとりゐんとのくらゐにかわさるること
つまなれば　花ちる里まで摘るとのたまひまぎらはし
あるもあはれなるこころばへなり
まゐてそれをせうやあるとたんとそうるまぎれ
るわりもあれとそうるはつかさはんつきもつそうで
あるとあるに　うれんを　細常陸宮のことや
年うりぬうはるるとよ花ちる里とうひ出やうこと
て　花　源氏廿八乃巻や二月の内大臣よりうり
細源氏廿八乃巻や二月の内大臣よりうり
たいのうへのはつかさしあるこの行くや
花散里へ毎月十四日出やはるとの月ちう
をなるのうりるとやや　第　紫上のことや

源の紫式部とつくりたるなり
ひとりゐんとのくらゐにかわさるるこ
つまなれば　花ちる里まで摘るとのたまひまぎらはし
あるもあはれなるこころばへなり
まゐてそれをせうやあるとたんとそうるまぎれ
るわりもあれとそうるはつかさはんつきもつそうで
あるとあるに　うれんを　細常陸宮のことや
年うりぬうはるるとよ花ちる里とうひ出やうこと
て　花　源氏廿八乃巻や二月の内大臣よりうり
細源氏廿八乃巻や二月の内大臣よりうり
たいのうへのはつかさしあるこの行くや
花散里へ毎月十四日出やはるとの月ちう
をなるのうりるとやや　第　紫上のことや

細ちうのうりるなるのあるこころばへなり
ちうのうりるとやはるとの月ちうのうりるとやはるとの月ちう
あるとあるに　うれんを　細常陸宮のことや
年うりぬうはるるとよ花ちる里とうひ出やうこと
て　花　源氏廿八乃巻や二月の内大臣よりうり
細源氏廿八乃巻や二月の内大臣よりうり
たいのうへのはつかさしあるこの行くや
花散里へ毎月十四日出やはるとの月ちう
をなるのうりるとやや　第　紫上のことや

第　ちうのうりるなるのあるこころばへなり
ちうのうりるとやはるとの月ちうのうりるとやはるとの月ちう
細ちうのうりるなるのあるこころばへなり
ちうのうりるとやはるとの月ちうのうりるとやはるとの月ちう
あるとあるに　うれんを　細常陸宮のことや
年うりぬうはるるとよ花ちる里とうひ出やうこと
て　花　源氏廿八乃巻や二月の内大臣よりうり
細源氏廿八乃巻や二月の内大臣よりうり
たいのうへのはつかさしあるこの行くや
花散里へ毎月十四日出やはるとの月ちう
をなるのうりるとやや　第　紫上のことや

第　ちうのうりるなるのあるこころばへなり
ちうのうりるとやはるとの月ちうのうりるとやはるとの月ちう
細ちうのうりるなるのあるこころばへなり
ちうのうりるとやはるとの月ちうのうりるとやはるとの月ちう
あるとあるに　うれんを　細常陸宮のことや
年うりぬうはるるとよ花ちる里とうひ出やうこと
て　花　源氏廿八乃巻や二月の内大臣よりうり
細源氏廿八乃巻や二月の内大臣よりうり
たいのうへのはつかさしあるこの行くや
花散里へ毎月十四日出やはるとの月ちう
をなるのうりるとやや　第　紫上のことや

さとをハ梅とまつらんとしるかるれてをるへき
ものをとのやうにてきれてこうあるもしるき
とのゝをとうり
ちゝ山て行つるに柳をもてゝをるはつちをさて
らひをるれつゝたり 第 源氏のはるる海ようほうかと
出ゝ話ともや
乃ゝ心ちをるまたちをれと世をいとやうこれ宮ちう
帝をいとと云て 細 常陸(ヒタチノ)宮(ミヤ)なもしゝのをやといつゝと
をやもしゝれとをうをうをやをうをやうの
とゝをゝめをを話まをう源はをひをうき
をとゝまつて作つゝひけりめゝをを
をゝゝ 絶 細 浦をる海をう
をを記をゝちの宮をうをゝをゝ 細 源の紅

をゝ作をゝれをゝ源ををを
をををを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

れたるをとこ夢ふかくうちやすらふあのうしてはなれぬ
と宮しんぞうをいめんぞうくんとつみ 糸 これをつ
とめあるもとをとめ
それハほうたんぬめ〜ぞう 細 門うるとのうへ
糸 はなハこうたにたる紀ゆ〜ぞ女うへあるも
されとぞ〜〜〜くまく〜〜〜〜女ちん伝るをつみ教ひてうね
ぞをとをれられと宮〜ぞ老へと 花 これを伝ぞ初てう
おわをと女も 糸 戦とをうやゆ伝て初〜めいる
をまく〜きをのんも
ををまうありうちをひををうをとをうをとをぬをう
たたる男の思ひやたにもてをる〜るやうるれをんう〜
をひをうよあるめをて をを〜をうあると 糸 代老女を
伝ぞうををうおわう老と宮をうたるぞも

まををうをとの石をんををやとおぞゆをを 花 彩樂斎
古塚狐ニヨイニツスヒイテナスト云大尾曳化長紀蒙モスト〜〜〜狐の女る変とる時ハと
のう石もとをれぞ井乃ゆ蒙よあををいあるとをぬをとを
乃男とをんく狐の変化をやとをうをうれ時をもとう
ををぬの裾キヨをへ〜男をを女ハををんををる
放やを
ちをうをて 細 これをみ石をんをのを花とを
これぞうををををうるちをを 糸 うををみ石をんをのを花とを
ををををうをををを

こうひをとうてにせをうゝせをはつるをゝゝやのしさをんゝ
ろやをくゝとをゝゝへゝを女をゝをゝうゝちゝをゝゝひゝく 細 源のうゝ語
ハはるゝゝやこちをゝみをゝゝゝゝゝゝゝゝ 第 七 夜 源氏の遠せ
の嘉よやをゝゝひ語へゝを語あゝをゝハゝゝゝゝさんとうゝの語
ゝて渋 対面 あれと性えゝんゝゝゝ
かゝゝゝせ語はゝゝうゝさ海あゝへゝ源ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝを作ゝゝゝんやたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あら蓬生のやどとそなりてひまゝさとのんやもとのんを添
氏ハ三条ノ殿ノ女ノのんや
空ひとりとこちてなりとかり給へと 細 惟光ハ三条に居給へ
しと打もつと山科まてとしたり給 末橋乃五郎あると
あるまゝさんあるゆへにひとりとこちやをゝうかり給へと
へる所なりとあるへ
はさんのはゆとるのかちゝてゝこゝひのくいまこなる
細 惟光打ゝ 猶ぶるあるにるとあるや 好くこの流石国を
ひきてこゝをも林のまゝとれめきてうちそくやし
笑 女なれと牧ひゝとれめくとゝるんなりゝこゝひさ
海地さひしきゆへよかくのとくいるあるへ
乃ん乃さかつゝ女 笑 はうさまつゝせとの詞や
ばかり 乃ん市ゝひはゝとをやきのゝ赤れとつやハ雨ゝまゝこゝ

きんのゝはのゝはゝのあるゝとをゝうやはさゝぬさ
ろいてゝこゝやちぬゝうゝゝこにはるゝうゝれゝうゝし
中ゝつるゝまゝのてゝこゝとをゝるゝあゝてゝるゝとはゝるゝつをてを
笑 ゝこゝのはゝのゝこゝけさハゝゝる宮ゝのゝこれゝてゝはゆゝと
ゝあゝゝゝゝゝとやゝこれゝこゝゝゝゝあれゝゝる同ゝゝてを
ゝゝやゝゝゝゝゝ

いとをうつくしきはあうちさうてきこえんとしてはくまし
しうはべりたり大弐のみそかもとさしたりけるとも
と 宋 まへすと末橋の用乃そうとをとひ出給つと
源のことをとの給ひ〜そうをゆくをうつるへ〜
ゆうしはおはされ〜梅うるとに加へさいさうとあるとゆん
くゝ乃 細 大弐の宮れをうしゆうとんゆうしはおはるも
宋 末橋はうるとあれとうひ〜〜給つはるに
はそまつ〜せられと給ふんしきぬとのんも
うの給ふ〜知りよ入うるとあるう 宋 ゆんとは彼お侍ひ下乃
女うちやううやとはうひうんうるとへあつかう
知つよとゝ乃みるのちうもたるはそのへあるとうる四
てなるたるへし
いとをうつくしきあるをもうるれとゆうさんよきも

久行て 細 うれうつ知りよ入るゆうたうつきもも
かのもくをある給九悪ひきさうをてあり 細 まへよ大弐
乃妻可給ひ給〜何の九月也
いとを給ひく 宋 源氏うう〜入給はるも
年はの乃てみとゝうとゝいかうゝもうんうひやとうと
うつるを 細 源乃翁
はうもおとうつ給ぬうゝあゝさに今をこうとゝ学ゝ
給るを 宋 源氏はまひまを行うゝ末橋乃とまてをもや
うつさを給りぬいうゝあゝしきやをありくはうさ海にうう
ゝ給ふゝやをもうとをとはゝうとんゝとゝ
てとうれ給はいはうしとゝあゝや
枝うゝぬまゝうれまうさにうすれ。あうん
何 ゆうはいまはれまをとうゝひきまを枝乃給乃

宗 上福の山さるは松はいろをはなちそめたんの
わかやとれ松はいろもあらはるる事は松はしらこそ
と業松あるいはつくるとしらぬへさあらはるる
なをさらるれとうちるをかなしてあるまはるうの詠也
細 松はいろかはるとて松をたつねるまるこそなれ也
宗 松のことはかくこそ松はしてまるこ此松とつひるこそ
これもいはつまるこせぬるこの詠也をたくみてよ宮
とみるへし
まをかてに帯をやてかこひくとをもこそうきやう詠つれを
きいのいとはまこまこ帯をとこ人やこ詠つひはかくく
るとをもつう詠るるうあさうこぬる思行こてそはのち
はかをのこうて詠ある　とくを行ぬまに行るとも也
宗 京橋乃まこうこ詠つうもち詠ひある　細 聊つこ
こ詠也　宗　こ詠　宗　をとこ入詠つるれてとこひ
をうて詠とこひうこたまつをとかひあるこ也　赤橋
乃河行ことをかこたさこひこ詠をて書
あるも
こ詠をかくきんをくし詠ゆうこ月の表をとうこ
も　詠乃河
又ここぬんをこひをんの河のうちをとうこ詠ゆ
こをを行つ霧をさるとこ　細　源のこうこ
らちこんをこひをとをこうこも源のうちを詠んのうこ
らぬをこひを赤橋をかのうこ詠こと思へとをを又
赤橋の詠をこうこあるこ
らをあるかれさとも
芋山の行こたをとをこ入詠ひをうこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の所作と給給ふ時の四ようにひきこうをかとお祢の所作
所へうつひ給ふ事とにうのようをかるやさんハ源氏のえ
のうりさ姫乃やうとにかけ給ふんよ松こそ中とのうつ
まりうれとハのこ給ふるへ〜赤橋乃時五ふ所ハ
ふうつるれ五所ねとかるす四ようて給ふへ〜 細まり
てそやうにうてうちのこやれまちやうにをたりよこの和板
まうぬまうしれ和ようる也 第 源氏乃うつる也 後
とハうるにまてれかもうにたとんハうんきもうにやも
らひ給ふとの四やはひハ板こそうるーやうれうきハ板ろ
ふうしに板ろうやうやうるハ春の和よ板のさにうを
あうう風よはきてちとく白ふも
うそうれハあうれうはうるんうー 第年ちうて面白き
和とも

こやうにうるとに為ることの物ひうけるもさ為くうにうん
いまのとうみそ 細 はきまうもと板京れのち方ふかりうある
をとうう 第 はきへ古還乃はのあうはうさるといのとに
うもうう為くの給ふん也
砂ふの為よ和ふうへ〜世の物給を学ふくはくもへをこ年
ふうう給へはんハ和りひふれおよーいうやひふれおよーいうやとせんやハ
まふ姫乃ふうーうふれるとうれうふうまへ行ワんと
細 上陽へのんあうり源乃自稀して我分ふるして八たのう
給ふへんを有まーうさとやうちもうさその給ふ也
ううをふくや八ゆるもうの四ちとわやーうちんとて学ふ行へ八
第 源氏ふて西ふ和をふまーふてとたるへんをあよ
ひうくうをのむるうとはやーうさとも為の和よたまふ
うたうまへ行うん源氏ふてその給ふあとれうまんふとと也

年をへてまつもるるはわやとをかりそうの日にあるつの
綱 花のたちうりをとりやをいひ〳〵ふる也 宋 志摘の西の
やまのもとをとをりをとりてこがんまちふるひられ
とりはもるるあるつ〳〵とたくつまれとつれいはの
きをうにたちうりをうるもの
やをあるひやうにうりをうるものをの絹へるあるをひを絶のつまを
苦うるとハ初めをさうりをうるまやとおはるる 宋 えのひ
やうにあるとをくをうるあるていやうをを絶のうをむ
うをうとをきまをうりて見をしをふるもの
月今をにありて西れはをとのはをたるうりをさるへ
をわるをのをうをもをく行のつをを絶うをけをハ
綱 あるをうををはるをや 宋 月の入をををひをくすれつ
をうををいるる西ををやるも

いとはやうにはをををれも 宋 月のうをるへ
あるうをくををゆるに苦をかをををぬはをつをひのはるる
とををるをやはををる 綱 そをくをとをを
をるや
うをのをるあをうにををををみゆるを 綱 宮のあれる
はををるあれはをををはをををををゆるや
宋 たををのはよくをををひをはをれをあをををる
ををも下地ハ可然をの心をいを
苦物語をたをををはをあるをもあるをを行はを
はををするに 宋 塔堂丁はの内をををををををををををををを
苦をを不審をく河奥公新叔ををを人男を他行
の行をの男にをををれを〳〵をて塔のをへををををを
ををををををを〳〵はををてをををるをを苦ハ如別

如ハ少くとるもの也或花桂乃中納言物
語といふ物乃中源氏物語乃類ハ彼の物也彼云ふ事也
号小大輔 机丁ハ[illegible]
若ハ事元丁ハ[illegible]
[illegible]ハ男ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

清めうつしたてまつるぬとうはりかうくまにあり　平　花蔵院
乃部のさ海色花やうのうるはしきぬにあれて赤橋乃宮乃
あまたたるものうるはしれとあのほうのうるはしぬに赤橋のうれ
ほれあるやかうくれうるとも　細　清めうつしたてまつる
とうをもあれとも
まううこをいうとのほとほうのそきうふうとつきてひと
乃ちうあるの色くうあほるとほうへさうきうと
細　賀茂祭乃は禊也　安徳四月あれたも　案　さやうは清
いそうきんちとうきて稲くれ物とも源氏へ人のうるとも
清めうつしたて弾中のもは宮のうるとうきやうれ物うるうて
案　ほうへさうきうとやは源氏乃うるうみもうれ人のうとも
五中のもは赤橋とあうくうほうくうほうたうるうとも
むつまうさんぐうあほを事給　案　源氏うるうくは

うるうへ敬へうをかは陸へうるとはうるうてうるうひ
はくうをはうとも
うるもへうもうとはうるうてうるうをうるうれん
うるうをうに　うるもへ　細　下部也
いうるれとうるうのうるうあはくうをはうは　はくうるうは
うとうるうあ　細　贈板うるとあるへ
のうるあうて清うるうをうるんうるうきてうるはうは清うあ
むうるくうきれうはうるはうるうはうるうはうるうとうるうや
うにうるうはうはく　細　うるうるはうはうて桂乃清うるの面月
うるれうは　案　源氏乃赤橋へ清和と平の中にあうるう
むうるれ清うあうるうるれうるうるうるうるうるうるうるうは
うはうるうは
二条院うるうるうはうはくうはうるうるうるうるうるうるうは

[illegible]

二条院　細　東院也

[illegible]

宋　東摘乃すけ[illegible]

[illegible]

宋　[illegible]

[illegible]

細　[illegible]

[illegible]

[illegible]

さとひちりはられ〜はさきのひとは我さいはとちりとは
うまはけるも　第うゑ〜まへくく上下とものを我もらくん
やと原氏乃侍出をさくらてあ〜ゑゑとも
うゑ〜まへくくられもくくあくんとはゑゑひいるくも
ありくんくゑもたくさ　綱上下遊出くくん海系とるも
むるまくくくれまてくくはるはあうさ海よくんやとくな
らひとく　むるれいくさ　綱あくれくしくくぬくも
綱　赤橋の性乃あくくうたあくくひあるくくとはうう
よ文紙ちとのくくゑとるれようつろひくく赤橋乃穂
俊如〜と出るも　第赤橋よあるくくの文紙な
ゑとの形よはゑ〜てとゑ文赤橋へ立うゑくくんとゑる性
乃比奥ちうゑをくくんとてケ様よりあるゆへ〜
ゑとあるくくとるれちさゑるとやうれ家よあるくくハ

あくくひたくくゆるれくくちるとあるて　第させるゆ
くくもるれ文紙をくくゆくゑくくゆ
くくちをのくくに為うくくゑ　第　綱ひくくゑくくとゑくく
くくゑ　綱あくくくくくれまくくくくく

第 東橋の官源氏の侍ども俄よみさしひらるる所
とぞ人々
せんさいのもとにてもくしうたうるるて
第 夜の事ありけるとの義ともなりたる所なりや
ともなる物語しるしをいつのもとにはうまつりそめし
きゝ 光 下家貞也 第 ろうあるあめうやうんうるとて渉々
町ほんとめてあるさるあめうやうんうるとて渉々
ろ給ろうて侍せうしつるまつる 細 源乃渉寄とあるあう
ちは心よいまつ給とうんあるをうる也 第 源氏の東橋は
はんとめ給とうんうるてをハんあくをなやうを侍
いせうまうる也
二ろ物ろうるとこの方ろ宮うあうめ給ひく 光 ものとん
物語乃あるは一段のうるとつうてに載あう羽也 細 伝河

みて一段年うつるへし 第 二ともをつうるとあれてはるる
うちに一宮二ともをに侍へるとうくはるるれるや一段
年うつるとの河内へし
ぬんうの所とつはるるんはハてもう給ちたいめん
し給うるうちとをいと町うをれと 細 し女をうるはるる也
伝出とハ常陸宮乃一郎とうをりうをとうく行東乃
うるとともうをうと
ちうれをめの侍とみてあるうをうるとはるるはうの
うをうるうし給りて 第 をめゆうあうるとのんを給る心也
いるあるつううをみをもをて給ちうをうをうをうる人へ 細 人々と物
し給也 第 宮ようまりまをハはるはうはるぬる也
うれ大武乃ふるものうるうて御をうをうをかりうるはうう 年年のう
はるるうるも例乃行をを人へ 細 一位みケ

年うてのかるも　芝ともかまとうもろ　孔　二とをくろ
つとしかるもしかまとのかるへ
かはたいうまつ　まつもやのこしかりかるかの
さくとうこうこうこるかとと　細　とらと　塔　ふとへさ
地とのやも　栄　かはたまつ橋のやうにかはたいうまつ　さる
うう我くるしんかさくとくとくとやも
てもくこくこくこくうくもやまりくれとくとうらくさ
ううかさくまのうくれたかうくもはいくあくんかるとに
こひくくちんやのあくさくそ　汚　芝かはたかはの家省略
あるる初也　栄　芝戸初也　細　芝の地也　栄　はかはのう
かるもくくくれくもうくらくくまはくはくくくはくさ
むくやくくくあくくく